

学生時代の「学ぶ姿勢」が 現在を作った。

花王一筋に活躍され、世界中に数々の新製品の発展・普及に努めた後藤卓也花王株式会社前取締役会長。その原点は、千葉大学で学んだ日々でした。企業人として道を追求した後藤先輩に千葉大生がインタビューし、後輩へのメッセージを頂きました。「千葉大学創立60周年記念展示インタビュー（附属図書館企画）」

——後藤さんは昭和39年に工学部工業化学科を卒業されましたが、どのような学生時代を送られていましたか？

私が学生だった当時は、教養課程は稲毛、そして専門課程になると松戸のキャンパスに通っていました。西千葉キャンパスができて工学部が移転したのが、私が卒業した年でしたから、ちょうど入れ替えでしたね。当時の松戸キャンパスは、陸軍兵舎跡を利用したもので、長屋のようなところで和気藹々と勉強していたの思い出されます。学生時代は橋本先生の無機化学の講義が面白く、熱力学やエントロピー、エンタルピーなどをつたないながらも研究しました。けれども、4年生になって決まった就職先は、主に有機化学を扱っていた花王石鹼株式会社（現在の花王株式会社）。慌てて夏休みに研究実験をしていた有機化学の先生

に「手伝わせてください」と頼み込み、勉強しました。周囲が麻雀やダンスパーティーなどに夢中になっていたことを考えると、そこそこ真面目な学生生活でしたね。学生時代に学び、つかんだ知識が即実践として使えたということは私の経歴ではありませんでしたが、**大学生生活で身につけた物の見方、考え方、学ぶ姿勢というものは社会人になって大いに役立ちましたから、真面目に勉強してよかったです。**

——部活動は何をしていましたか？

弓道部です。松戸キャンパスになってからも稲毛の練習場まで通っていました。きちんとした弓道場もなく、丸太や土を運んで道場を整え、雨の日は部屋で巻藁に向かって練習するなど、文字通り「弓道に打ち込んだ」。4年間だと言えるでしょう。授業以外の時間



花王株式会社 前取締役会長
日本マーケティング協会会長

後藤卓也氏
ごとう たくや

はほとんど部屋に居たといっても過言ではないくらいです。後に後輩が大量に入学してきましたが、私が入った頃は先輩と同輩を合わせても30人前後という小さな所帯で、今という同好会のようなアウトホームな雰囲気でした。弓道とは、**全て自分の責任、他人のせいにはできない**武術です。チームプレイであれば、チームメイトがダメだった、相手が強かったと言いつつ立ちますが、弓道は的に当たるかどうかは自分次第。良い射をすれば、的に当たるのは必然。それが良かったですね。最近ゴルフを楽しむ私ですが、この「全ては自分次第」という部分は、弓道に通ずるものがあると思います。また、「射は正しきを己に求む」という弓道の精神は、**花王の正道を歩むという理念**にもつながっており、仕事をやる上で、常に傍らで私自身を支えてくれました。

——経済人として、今の若者に望むことは？

今の若い方は、情報がありすぎてかわいそうな気がします。私の時は、余分な情報もなかったせいか、会社に対する過度な期待もありませんでした。4年間勤めた会社で、会社の意向に異議を唱えて自分の希望を伝えたのは、ただ一度だけ。あとは目の前の仕事をがむしゃらにやるしかなかった。けれども、それが成長につながったのだと思っています。ですから、私は会社をよく言いました。「**まずは、ただ目の前にある峠を登ってみなさい**」と。峠を登れば素晴らしい景色が見えるかもしれない、次の峠が見つかるかもしれない。もしもその先が崖なら下りて別の峠を登れば良い。それは、麓で寝ている人には決して得ることのできない経験です。けれども、今の人は「自分探し」が好きで、「この会社は自分を活かしてくれない」と言っ

て目の前の時に意義を見いださずに辞めてしまう。厳しい言い方になりますが、企業には、例えば花王の「清潔で美しく健康な毎日をめざして」といった、社会の幸福を追求するための夢があります。個人の夢は、この企業の夢の前では小さなものです。もちろん、イチローや浅田真央のような天賦の才能があるなら、自分の可能性を求めて追いかけるのも良い。そうでなく、漠とした夢し

かないなら、**まずは与えられた環境で懸命に頑張るべきです**。3年で新入社員約1/3が辞めるという時世ですが、転職して成功した人よりも、留まって成功した人の方がはるかに多い。これから社会に出る人には、このことをぜひ頭の隅に置いてほしいですね。

——では、OBとして千葉大学の学生に望むことは何ですか？

まず、本や雑誌、新聞を読むこと。本を読まない人は考えが単純に、雑になりがちです。 インターネットや携帯電話でばかり情報を得るのはダメ。簡単に得た情報は簡単に消え去ります。ページを繰り、読むという行為が自分の知識になるのです。それに、雑誌や新聞なら、自分が得たい内容以外の情報も自然と目に留まり、頭に入ってきます。電車や携帯やゲームに興じる人を見ると残念だな、と思います。目を上げれば、中

吊りがあり、さまざまな人物観察ができ、窓の外には景色が広がります。日々の何気ないできごとに興味を持つこと、その積み重ねがひらめきにつながるのですから。私は学生時代、吉川英治の歴史小説を読み込みました。過去の出来事、失敗から学ぶこともたくさんあります。難しい専門書などなくてもいい、様々なジャンルの本をたくさん読んでいた方がいい。学生のうちにそういう習慣を身につけると良いでしょうね。



たくさん本を読んでください。

次に、**多くの人と接し、話して欲しい**。それも、メールではなく、きちんと顔を見て話をする。自分の考えをまとめるためには、他人の声、意見が必要。他人の声を聞き入れることで、自分をより磨くことができるようになります。クラブ活動などで、意見や立場の違うたくさんの人の中に身を置くことも将来に役立つ得難い経験だと思います。千葉大学には学部同窓会や校友会、経済人倶楽

かなければ、**まずは与えられた環境で懸命に頑張るべきです**。3年で新入社員約1/3が辞めるという時世ですが、転職して成功した人よりも、留まって成功した人の方がはるかに多い。これから社会に出る人には、このことをぜひ頭の隅に置いてほしいですね。



左から法経学部2年小堺一成さん、後藤氏、教育学部3年加藤恵さん

部「絆」という卒業生を中心とした団体もありますね。せっかくならういった場があるのですから、ぜひ利用して、様々な人と接し、たくさん話すと良いと思います。それは皆さんにとって大きな財産になると思いますよ。

～インタビューの様様をご覧ください～

附属図書館にて開催された「千葉大学創立60周年記念展示～大学の歩みと活躍する卒業生たち～」で各学部の活躍する卒業生をご紹介します。そのおひとり後藤卓也氏にインタビューをしました。「ポッドキャスト@千葉大図書館」では、その他にも「千葉大学の研究を語る」等の多くの活動を配信していますので、ぜひご視聴ください。

<http://libcast-chibau.seesaa.net/>
(写真はポッドキャストの画面です。)



創立60周年記念事業報告

能楽公演

千葉大学創立60周年記念「能楽公演」

平成21年11月4日（水）、千葉大学創立60周年記念能楽公演を開催しました。本公演は、翌日の国際シンポジウムの関連行事としても位置づけられ、日本文化を通して、国内外の研究者・学生（留学生）・市民等が交流・触れ合う機会を提供することを目的としたものです。

今回の公演は本学として初めての企画であり、会場となった千葉大学けやき会館（定員320名）は、ヘルシンキ大学の学長国際シンポジウム参加者並びに多くの留学生らが訪れ、ほぼ満員の観客で埋め尽くされました。齋藤康学長の挨拶後、出演者による和楽器の説明などの講座、続いて本学の非常勤講師である和泉流狂言方能楽師、小笠原匡氏による狂言「棒縛」、最後に観世流シテ方能楽師の浅見慈一氏による能「船弁慶」が上演されました。特に講座については英語による逐次通訳がなされ、パンフレットも英文併記とし、大学の国際化を推し進めるうえで、貴重な公演となりました。

会場内は静寂な雰囲気に入れ、能楽の醍醐味をじっくりと鑑賞することができ、最後は観客の惜しめない拍手のなか、素晴らしい公演の幕が閉じられました。



狂言「棒縛」



能「船弁慶」



能「船弁慶」

附属図書館 展示

千葉大学創立60周年記念展示 —大学の歩みと、活躍する卒業生たち—

平成21年10月27日（火）～11月30日（月）、千葉大学附属図書館にて「千葉大学の過去・現在を知ろう、そして未来を語ろう」というキャッチフレーズのもと「千葉大学創立60周年記念展示—大学の歩みと、活躍する卒業生たち—」を開催しました。

千葉大学の60年にわたる歩みと、各界で活躍されている卒業生を紹介した展示会には、学内外から約4,000人の来場があり、非常に好評を得ました。「この展示で、千葉大卒の著名人を知ることができ、驚くと共に嬉しく思いました。社会に出て活躍する先輩の姿など知る機会が増えると自分にとっても励みになると思います。」などの感想が寄せられ、多くの方々に、千葉大学の歩みや社会の第一線で活躍されている卒業生の方々の存在を知っていただき、未来について語り合うきっかけをつくる展示会となりました。



附属図書館展示、けやき会館展示は、千葉大学のホームページで見ることができます。ぜひご覧ください。

けやき会館 展示

千葉大学創立60周年記念展示 —つねに、より高きものをめざして—

平成21年10月27日（火）～11月7日（土）、創立60周年記念行事の主会場となったけやき会館で、「千葉大学創立60周年記念展示—つねに、より高きものをめざして—」を開催しました。エントランスホールに「各部署の歴史や変遷及び現状等」、「各部署における重点的な取り組み、ニュース又はトピック等」をテーマに作成したパネルが展示され、来場者に千葉大学60年の歴史と取り組みの一端をアピールすることができました。



学園祭

創立60周年企画と並行して、10月30日（金）～11月2日（月）には恒例の第47回千葉大祭を開催しました。中央ステージや校舎ではグループごとに趣向を凝らしたイベントが行われ、所狭しと並んだ模擬店のテントも大いに賑わいました。



千葉大学創立60周年記念事業(冠事業)一覧

60周年記念事業

| 名称 | 期間/場所 | 概要 |
|---|--|---|
| 千葉大学創立60周年記念国際シンポジウム | 11月5日(木) けやき会館大ホール | 「次世代人材の養成－イノベーション創出・グローバル化促進の観点から－」をテーマに、国際シンポジウムを開催 |
| 千葉大学創立60周年記念展示 －大学の歩みと、活躍する卒業生たち－ | 10月27日(火)～11月30日(月) 附属図書館1階展示コーナー | 千葉大学の60年にわたる歩みと、活躍する卒業生たちを紹介する展示会を開催 |
| 千葉大学創立60周年記念展示 －つねに、より高きものをめざして－ | 10月27日(火)～11月7日(土) けやき会館エントランスホール | 「各部署の歴史や変遷及び現状等」、「各部署における重点的な取り組み、ニュース又はトピック等」について紹介する展示会を開催 |
| 千葉大学創立60周年記念「能楽公演」 | 11月4日(水) けやき会館大ホール | 日本文化を通して、国内外の研究者・学生(留学生)・市民等が交流・触れ合う機会を提供することを目的に能楽公演を開催 |
| 千葉大学創立60周年記念公開市民講座 「千葉学のいま－海と里山の歴史、これからのまち－」 | 11月14日(土) けやき会館大ホール | 房総半島の成り立ちと自然、そこで展開されてきた人々のくらしと歴史、そしてこれからの地域づくりを考える市民講座を開催 |
| 千葉大学創立60周年記念大学院教育改革 プログラム成果報告会 | 12月4日(金) 自然科学系総合研究棟2階 マルチメディア会議室 | 千葉大学の大学院教育の実質化の推進を図るため、大学院GP(大学院教育改革支援プログラム)の成果発表等を行う成果報告会を開催 |
| 千葉大学創立60周年記念大学改革シンポジウム 「21世紀の学問が求める社会が求めるそして企業が求める人材の育成」 －そのための具体的手法を求めて－ | 1月25日(月) けやき会館大ホール | 世界的に低迷する経済状況と多極化する国際情勢の中で、わが国が持続的発展を図るためには、個性的で豊かな創造性を有し、挑戦し、やりぬく力のある人材が必要不可欠です。そのために千葉大学はどのような取り組みをすべきかを考えるシンポジウムを開催 |

冠事業

| 名称 | 期間/場所 | 概要 |
|--|-----------------------------------|--|
| Science Lectureship Award 2009 | 5月19日(火) けやき会館大ホール | メキシコから「ホセ・サルカン教授」を迎え、講演会等を開催 |
| 公開市民講座 ～カビ!?そろそろ気になりますね Part 4～ | 6月14日(日) けやき会館大ホール | 「食べ物とカビ」、「しょうゆを作るカビ・麹菌」、「酵母のふしぎ」の講演 |
| 千葉大学CERES寄附研究部門 公開シンポジウム －地球温暖化現象の解明・対策・適応への挑戦－ | 6月15日(月) けやき会館会議室 | 地球温暖化寄附研究部門による「地球温暖化の未来にむけて」をテーマとした公開シンポジウムを開催 |
| 千葉大学ユニバーサルフェスティバル | 6月25日(木) けやき会館 | 留学生による自国文化の発表(韓国、タイ、ドイツ) |
| 平成21年度第1回量子機能デバイス講演会 | 7月1日(水) 自然科学系総合研究棟2号館 2階会議室 | 講演題目: 真性グラフェンにおける室温での飽和速度現象 |
| 第18回千葉大学大学院薬学研究院・薬友会生涯 教育セミナー(宮本高明記念講演) | 7月4日(土) けやき会館大ホール | 「植物からのくすり－漢方・生薬の最先端－」をテーマに4名の講師が最先端の話題を講演する |

1月4日現在

| 名称 | 期間/場所 | 概要 |
|---|---|---|
| 講演会「世界文学としての『源氏物語』」 | 7月31日(金) 附属図書館1階エントランスホール | 「源氏物語」と騎士道物語－王妃との愛の著者、千種キムラ・スティーン氏を迎えての講演会 |
| 国際シンポジウム「北東アジア史」の地平 －その意義と問題点－ | 7月31日(金) 社会文化科学研究系総合研究棟 2階マルチメディア会議室 | 「北東アジア史」の意義と問題点について、国際的に著名な研究者を招へいし討議する |
| 第二期アジアの最先端有機化学 －スタートアップシンポジウム－ | 8月10日(月)～8月11日(火) 自然科学系総合研究棟大会議室 | アジアにおける最先端有機化学の国際シンポジウムを開催 |
| Chiba International Forum : Aspects of Medieval Studies (千葉国際フォーラム: 中世研究の諸相) | 9月2日(水) 社会文化科学研究系総合研究棟 1階マルチメディア会議室 | 中世の研究において国際的に著名な研究者を招いて講演し、研究討議を行う |
| シンポジウム 臨床開発の新たな地平 「研究、教育と実践の調和を目指して」 | 9月7日(月) けやき会館 | 最先端の研究からみた現在の制度システムの問題点、国際的な医薬品開発からのフィードバック、基本的な教育研究基盤の醸成と課題等について明らかにする |
| 予防医学センター市民講演会 | 9月13日(日) けやき会館 | 新型インフルエンザ対策と子どもの緊急医療を考える市民講座 |
| 日本メキシコ友好400周年記念学術シンポジウム | 10月2日(金)～10月3日(土) けやき会館 | 「自然との共生」をメインテーマとし、生物多様性、環境、土壌、地震の分野について講演及びパネルディスカッションを行う |
| 有機合成化学協会関東支部 ミニシンポジウム千葉2009 | 10月23日(金) 自然科学系研究科1階大会議室 | 有機化学に基づいた近年注目されたテーマについて、学外から講師を招き講演する |
| 千葉大学オープン・リサーチ2009 見せるぞ底力!～創立60周年を迎えて～ | 10月24日(土) けやき会館 | 本学で創出された学術研究成果等を広く企業、地域社会に公開する研究シーズ展示会や特別講演会、産学官交流会を開催する |
| 第12回ヨウ素学会シンポジウム | 10月29日(木) けやき会館 | 国内外のヨウ素研究者及び企業からの講演、ポスター発表及び展示を行い、幅広くヨウ素に関する研究について討議する |
| 平成21年度 工学部公開講座 | 10月31日(土) 工学部17号棟112講義室 | 環境問題をテーマとした「未来をひらく都市と建築の環境技術について」の公開講座を実施する |
| 第3回千葉大学グローバルCOEプログラム (医学系) シンポジウム | 11月6日(金) 医学部附属病院3階第1講堂 | 免疫システム統御治療学分野をリードする国内外の研究者を招聘し、発表、討論を行う |
| グローバルCOE・有機エレクトロニクス国際研究 会: 電子状態、電荷移動、デバイス物性 | 11月6日(金)～11月7日(土) 自然科学系総合研究棟2階 マルチメディア会議室 | アジア圏の研究グループを招聘し最近の研究成果に関する討論を行うと共にアジア圏での研究連携を進める |
| 第4回シンポジウム 千葉大学における男女共同参画～次のステップに 向けて～ | 12月1日(火) けやき会館大ホール | 大学から優秀な女性研究者の輩出を増大するために必要なものは何かをテーマとした特別講演、事業報告、鼎談を行う |
| 第15回CERES国際リモートセンシングシンポジウム －環境リモートセンシングの成果と挑戦－ | 12月15日(火)～12月16日(水) けやき会館会議室 | 4つの研究プロジェクトの総括を行い、海外のエキスパートと国際的な最新の研究について討議する |
| 千葉大学ユニバーサルフェスティバル | 12月17日(木) けやき会館 | 留学生による自国文化の発表 |

国際シンポジウム

千葉大学創立60周年記念国際シンポジウム

平成21年11月5日(木)、千葉大学けやき会館にて千葉大学創立60周年記念国際シンポジウムを開催しました。当日は秋晴れにも恵まれ、ホールは立ち見ができるほどの学生・教職員で埋め尽くされました。

シンポジウムは学長、森田健作千葉県知事、千葉滋胤千葉県商工会議所連合会長の挨拶で始まり、続いて高エネルギー加速器研究機構の鈴木厚人機構長の基調講演が行われました。基調講演では、高エネルギー加速器研究機構における教育研究活動の紹介、多くの日本人ノーベル賞受賞者を輩出した加速器科学分野におけるイノベーション創出、グローバル化の促進に関する取り組みについての紹介が行われました。招待講演では、ヘルシンキ工科大学のMatti Pursula学長とインドネシア大学のGumilar Rusliwa Somantri 学長が各大学の教育研究活動の紹介と次世代人材の養成に関する意見・提言を行いました。

その後のパネルディスカッションでは、「次世代人材の養成－イノベーション創出・グローバル化促進の観点から－」のテーマで、シンガポール国立大学のAndrew Wee教授、カリフォルニア大学サンディエゴ校研究員の日沼洋陽博士、中国国家自然科学基金委員会の王教授と千葉大学の理事・教授を加えた8名からそれぞれ千葉大学の次世代人材の養成に関する提言がなされました。会場と一体となったディスカッションでは、白熱した討論が続き、予定時間を30分ほど延長して終了しました。



鈴木厚人高エネルギー加速器研究機構長



挨拶をする齋藤康千葉大学長



森田健作千葉県知事



Matti Pursulaヘルシンキ工科大学長



千葉滋胤千葉県商工会議所連合会長



Gumilar Rusliwa Somantri
インドネシア大学学長



パネルディスカッション

公開市民講座

千葉大学創立60周年記念公開市民講座「千葉学のいま－海と里山の歴史、これからのまち－」

平成21年11月14日(土)、房総半島に位置する千葉県について考える千葉大学創立60周年記念公開市民講座「千葉学のいま－海と里山の歴史、これからのまち－」を開催しました。

講座内容は、千葉地域を対象とした千葉大学の教育・研究実践「千葉学」を紹介するもので、「第一部 千葉大学の房総研究」では、千葉県に住んでいる県民にとっても意外に知られていない房総半島の成り立ちや自然、そこで展開されてきた人々のくらしや歴史について、本学の各分野の教員から講演がありました。「第二部 千葉大学の地域連携実践」では、平成19年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択された「共生環境デザインによる房総半島活性化支援」の成果に基づき、本学工学研究科の学生が、千葉県山武市との連携と地域づくりについての提案を熱く発表しました。

当日は、生憎の天候にもかかわらず、千葉県内から130人を超える一般市民等が受講し、活発な質疑や意見交換が行われました。



挨拶をする北村彰英理事

● 天皇皇后両陛下が千葉大学園芸学部に行幸啓 ●



戸定歴史館で齋藤千葉大学長、菊池園芸学部長、伊東同創立100周年記念事業委員会会長らにお出迎えをうける両陛下（写真：松戸市提供）

去る十月十六日（金）、天皇皇后両陛下が千葉大学園芸学部に行幸啓され、陛下が皇太子時代の昭和十八年十月の戦時下に、千葉大学園芸学部前身の千葉高等園芸学校でサツマイモの収穫をされたイギリス風景式庭園付近などを、御料車からご視察されました。

また、両陛下はその後、キャンパスに隣接している松戸市戸定歴史館にて開催している千葉大学園芸学部創立100周年記念事業「江戸時代の園芸文化史」の展示を、藤井英二郎教授及び三位正洋教授の説明のもとご質問を交えながら約三十分にあたり熱心にご覧になりました。

その後、両陛下は、当日お出迎えをした齋藤千葉大学長、菊池園芸学部長らとご歓談されました。



藤井英二郎教授及び三位正洋教授の説明のもと、戸定歴史館の展示をご覧になる両陛下（写真：松戸市提供）



松戸キャンパスを車内からご視察され、学生にお手を振られる両陛下

創立60周年記念OB・OG 千葉大学を語る

船岡 紀子 氏
(千葉県健康福祉部薬務課長)

プロフィール

| | |
|---------|---------------------|
| 1973年3月 | 千葉大学薬学部卒業 |
| 1973年4月 | 千葉県職員（保健所勤務） |
| 2008年4月 | 千葉県健康福祉部薬務課長（現在に至る） |



平成21年度 薬と健康の週間記念式典にて

私の大学生活は、入試前年の全共闘などによる東大安田講堂の封鎖が入試の年の1月に機動隊により解除され、東大入試の中止などの大学紛争の最中に始まりました。比較的静かな大学であった千葉大学でも本部封鎖があったり、特に1年教養のドイツ語の時間がよく討論会になったことを記憶しております。また、薬学部の学生生活の中では、大学祭発表のために、休みの日にも交代でマウスの水遣りをしたこと、4年時の薬品分析化学の卒業研究では、毎日、分液ロートを

振ってばかりいたことなどを思い出します。

私の実家は千葉大学の裏門から徒歩で10分程度の場所にあり、その後も西千葉キャンパス近くで暮らす期間が長かったために、地元の大学として、時には大学祭に行くなど卒業後も身近な大学となっております。

就職の際は、薬品分析等の試験研究に携わりたいと思っておりましたが、千葉県職員となってからは、研究業務に携わらずに、薬事や食品衛生行政に長く関わることになり、あまり得意でなかった各種法令に基づく仕事を行ってまいりました。

この2年間は、薬学部で薬事関係法令の臨時講師を勤めさせていただきましたが、不勉強のため学生の方々には、ご迷惑をかけたと反省しております。あと1年と僅かで退職となりますが、その退職の年に奇しくも「千葉大学薬学部創立120周年事業」が行われる予定ですので、卒業生として、少しでもお手伝いができればと思います。

卒業アルバムより、前列右、船岡氏



CHIBADAI People

企画総務部総務課総務グループのみなさん



総務課総務グループは、学内の儀式・諸行事・会議の庶務、文書・規程に関する事務などを所掌しています。この他に、“他の部課室の所掌に属さないこと”を処理し、調整することもあります。仕事は地味で、「何でも屋」のようなイメージがありますが、本来は「総てを務める」の字のごとく、大学全体の業務を掌握し、戦略的な仕切りをする部署なのでしょう。しかし、その理想のレベルには、まだまだ達していないのが現状です。

今年度は千葉大学創立60周年を記念した様々な記念行事が開催され、関係部局の皆様にはご協力いただき、大変ありがとうございました。また、会議の開催や文書・荷物の受払いなどの日常業務では、各部局の協力なしには円滑な事務の遂行はできません。皆さんに頼るばかりでなく、頼られる「総務」となるよう努めてまいりますので、これからもよろしくお願い申し上げます。

CHIBADAI Press アンケート

読者の皆様のご意見を今後の企画・編集に活かし、充実した内容でお届けするためアンケートにご協力をお願いします。

<https://chibadaipress.kappe.jp/> (PC、携帯共通)

